

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻・環境科学専攻（旧：大学院食品栄養科学専攻）の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,200名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

食品栄養科学部長 三浦 進司



1989年京都薬科大学卒
1996年静岡県立大学大学院修了
博士（薬学）
米国NIH、国立健康・栄養研究所を
経て、2012年食品栄養科学部着任、
2014年より教授

平成31年4月に、10代目の食品栄養科学部長を拝命いたしました。昭和62年の創設時に掲げられた食品栄養科学部の理念と目標、そしてこれまで築き上げた歴史を受け止め、令和の時代において本学部がさらに発展するよう尽力したいと考えております。

さて、「食」に対する社会の関心はますます高まっており、Society 5.0と呼ばれる新時代の幕開けとともに「食」を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。本学部は平成26年度に3学科体制になり、ヒトの健康維持に「食」が果たす役割に加え、より良い「食」環境を創造する方策を、食品科学、生命科学、環境科学の観点から探求できるようになりました。また、平成28年度には栄養生命科学科に栄養教諭教職課程を、今年度には食品生命科学科と環境生命科学科に高等学校理科教諭教職課程を開設し、取得可能な資格の選択肢を増やしました。このように多様性を増した本学部では、「食」に関する幅広い知識のみならず、「食」と健康の関連性、「食」や健康を取り巻く環境の問題を科学的に追究し、論理的に思考する能力や、変革の時代に挑戦できる能力、より良い社会を創造できる能力など、これから社会において求められる力を学生に身につけてもらうことを目指して教育・研究に取り組んでおります。

これまで卒業生の皆様は、食品企業、官公庁、臨床現場、大学など、「食」や健康、環境に関係する様々な分野で活躍しております。今後も、社会で輝き続けられる人材を輩出できるよう、われわれ教員は切磋琢磨しながら教育力・研究力を高め、一丸となって学生を応援していきます。創星会の皆様にはご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

創星会総会のご案内

第13回創星会（ホームカミングデーおよび懇親会）を開催いたします。

今年度も昨年度に引き続き、ご好評いただいたホームカミングデーを開催いたします。

大学祭（第33回剣祭）1日目に学内に創星会ブースを設置し、社会で活躍する卒業生・修了生をお招きして、卒業生同士や在学生との交流を気軽に楽しめるように企画致しました。

ホームカミングデーのみ参加の方は参加費は無料ですので、直接ブースにお越しください。

懇親会は事前登録が必要となります。メール（souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp）にてお申し込み下さい。

【日 時】令和元年10月26日（土）

- ホームカミングデー 14:00～15:50 食品栄養科学部棟3F 5314教室、5319教室
- 総会・懇親会 16:00～18:00 草薙茄兵衛（静岡県静岡市清水区草薙一丁目26-1）

詳細は同封のご案内をご覧ください。※懇親会の事前登録締切日は令和元年10月19日（土）です。

創星会交流支援事業報告

昨年度から始まりました創星会交流支援事業を2つのグループが活用されました。同窓会や会合を行いましたのでご紹介いたします。

「食品栄養科学部サイエンスネットワーク」支援の会

本会は、2016年11月の静岡県立大学創立30周年記念行事を機に発足しました（旧名称：フードサイエンスネットワーク）。主な目的は、食と健康をキーワードとしたサイエンスネットワーク作りです。食品栄養科学部卒業生/大学院修了生で構成される本会を運営するための支援会を立ち上げ、2018年12月28日、静岡県立大学にてミーティングをしました。第2回の活動時期、活動内容、今後の方針などを議論しました。各サイエンス分野で活躍する卒業生が今一度静県大に集合し、親睦を深めることで、新たな化学反応が起きることを期待します。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

（岩崎有作@京都府立大学、食品学科13期生）



「食品栄養科学部サイエンスネットワーク」に期待すること

私たちヒトが生きていくためには食料が必要で、何を食べるかが健康に影響を与えることがわかっています。ただ、今日、私たちを取り囲む複雑な自然環境や社会環境を考えると、何を食べたら健康で健全な生活をより長く送ることができるかに関して、明確な答を出しづらくなっています。本ネットワークが食品栄養科学の知見をわかりやすく情報発信することで社会に貢献することを期待します。

（高塚千広@東海大学短期大学部、栄養学科8期生）

一つ目は異分野の研究者とのネットワーク作りです。共同研究や予算の獲得に至ればよいなと思っております。二つ目はアカデミック分野で研究者を目指す学生や若手研究者へのサポートです。アカデミック分野でパーマネント職を得ている研究者は周りからサポートを受け、職を得ているはずです。今度は我々が後輩たちをサポートする番です。

（後藤新悟@国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、博士2005年修了）

私は所属研究室の先生方や先輩方に恵まれたおかげで、サイエンスの楽しさを知りました。私が食品企業に勤めているのも、食べることのサイエンスに関心を持ったからです。企業研究者の基盤としても必須だと感じています。本会が、OB・OGの交流の場となるだけでなく、在校生がサイエンスの楽しさや重要性を知るきっかけの場となることを期待します。

（坂本和洋@味の素株式会社、食品学科19期生）



令和元年度は「第2回食品栄養科学部サイエンスネットワーク」シンポジウム・交流会が開催されます。

【日 時】令和元年11月16日（土）14:00～19:30（受付13:20～）

【場 所】静岡県立大学谷田キャンパス小講堂（講演会）

学生ホール（ポスター交流会、懇親会）



詳細は同封のご案内および、創星会HP（<http://www.us-souseikai.com/>）に掲載致しますのでご覧ください。

2016年食品栄養科学部卒業生同窓会

2019年1月5日に静岡市内で2016年食品栄養科学部卒業生同窓会を開催し、28名が参加しました。開催にあたりましては、創星会より助成金をいただき、このような貴重な会を設けることができましたことを心より御礼申し上げます。

私たちは、学部卒業から3年が経過し、先生方の教えや同窓生の励ましを心に留めながら、各地で活動しております。同窓会当日は遠方から都合をつけて参加してくれた方も多く、久しぶりに皆の元気そうな顔を見て、学生時代に戻ったような気分で楽しいひとときを過ごすことができました。どの場面を振り返っても懐かしく、学生のとき、しっかりものだった人は相変わらずちゃんとしていたし、講義に毎度遅刻気味だった人は同窓会も遅刻。皆で「何も変わらないね」と大笑いをしました。そうかと思えば、結婚で名字が変わった人もいて、私たちも新たなライフステージに進みつつあることを実感しました。会はアトラクションなどは用意せず、歓談のみでしたが、思い出話、仕事の話、私生活の話など、どれだけ話しても話し足りないほどで、大いに盛り上りました。

こうして卒業後もアットホームで実りある会を開催することができ、食品栄養科学部で過ごした4年間はかけがえのない時間だったと改めて感じました。今後も、定期的に集まる機会を設け、この縁を大切にしていきたいと思います。

(食品生命科学科26期 小池 麻友)



創星会会員交流支援をご活用下さい

卒業生・修了生同士の集まりを支援します！

創星会では、卒業生相互の交流を促進・活発化することを目的として、会員同士による集まりを支援致します。

昨年度は、会報誌掲載の2グループが活用されました。年間10団体まで支援いたしますので奮ってご応募下さい。

詳細に関しましては、[創星会HP <http://www.us-souseikai.com/>](http://www.us-souseikai.com/) の【創星会会員交流支援事業参加規程】をご覧ください。

- 支援内容：卒業生の参加者14名までは一人につき3千円を補助し、
15名以上の参加者については一人につき5千円を補助致します。
- 支援条件：
 - ① 卒業生が10名以上参加すること（研究室の同門会は支援しない）。
 - ② 主催者（幹事）が規程内容を理解し、全責任を負う。
実施後は、同窓会会報誌への報告記事掲載と次回総会での
実施報告に協力する。
 - ③ 交流会の開催2ヶ月前までに申請する
(年間10団体まで、先着順)。



上記①～③の条件の他、詳細は支援事業参加規程をご確認下さい。

卒業生・修了生同士の交流を深めるきっかけとして是非ご活用下さい。

同門会便り

美生会～美しく生きる会～ 旧微生物学(野沢龍嗣先生)研究室

「美生会」は、2007年3月末にご退官された野沢龍嗣教授の微生物学研究室(大学院・生体防御研究室)の同門会です。美生会では、2年に一度、おいしい食事を囲んで思い出話や近況報告をしています。2000年に始まって以来20年近く続いており、昨秋第11回目を迎えました。ついにご退官後の開催が上回りましたが、先生方もお変わりなく懐かしい雰囲気もそのままで、まるで研究室でお茶をしてるかのようでした。

研究室の思い出といえば、お茶の時間。野沢先生が「お茶にしよう」と声をかけてくださるとお茶の時間がはじまります。いそいそと教授室にお邪魔して、わいわい言いながらコーヒー豆を挽いてドリップします。先生自ら淹れてくださることもしばしばありました。コーヒー、時には緑茶や紅茶をいただきながら、研究の相談、TVの批評、食べ物の話・・・手作りのお菓子やケーキを持ち寄ったりもありました。中でも先生の作ってくださったマロングラッセは格別でした!当時は何気ない日常のひとときでしたが、今思い返せば、とてもあたたかく幸せな時間でした。

さて、次回美生会の開催は来年2020年の夏～秋を予定しています。野沢先生、久留戸涼子先生(現 常葉大学 教育学部 教授)をはじめ、研究室の卒業生、修了生だけでなく、他の研究室の方にも参加していただいている。参加をご希望される方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。お久しぶりの方もお子様連れも大歓迎です。皆で楽しい時間を過ごしましょう。(研究室の卒業生、修了生の方でメールアドレスを変更された方は美生会メールアドレスまでご連絡をお願いします:biseikai.u.静岡.ken[a]gmail.com(静岡をローマ字表記:[a]を@))

(次回美生会幹事 学部15期生・博士前期課程修了 田中(鈴木) 浩子)



2018年11月24日 美生会にて

研究室紹介

■研究室の近況(食品化学研究室 伊藤 圭祐)

2016年に渡辺達夫教授の後任として食品化学研究室に着任し、3年が経ちました。食品化学という非常に幅広い領域を担う研究室の主任となるにあたり、食と健康に最も大切なことは何か、また本学部に不足する学術分野、社会から必要とされる教育研究とは何かを熟考し、自身の専門とも合致する「おいしさの化学」に取り組むこととしました。具体的には、“味と香り”的科学と技術を主軸に、苦渋味マスキング法の開発、新規呈味成分の探索・評価、香りの感知メカニズムの解明、また香り成分による生体調節機能の解析などを進めています。2018年には渡辺先生の教え子でもある寺田祐子が助教として着任し、現在は教員2名、研究補助員1名、大学院生7名、学部生3名の計13名体制で日夜活発な議論をしながら研究・教育を行なっています。幸いなことに多くの企業様からお声かけいただいており、学術的重要性に加えて産業応用も見据えた研究に取り組むことができて

います。食品企業で活躍中の現会員の皆様とも一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

今年11月にはフードサイエンスネットワーク改め第2回目の「食品栄養科学部サイエンスネットワーク」が開催予定となっています。本会は大学院同期の岩崎有作教授(京都府立大学)が中心となって設立され、現役学生、卒業生、教員が世代を超えた交流によって化学反応を起こすきっかけとなることを目指しています。詳細については本誌内でも案内があるかと思いますが、ぜひ創星会と合わせてこちらにもご参加いただき、私の交流はもちろん、仕事の上でも切磋琢磨していくような関係性を構築できればと思います。



■研究室の近況 (生化学研究室 三好 規之)

2016年4月に大島寛史先生の後任として着任し、今年で4年目のシーズンになりました。2017年4月には東京大学より橋詰力博士が助教に着任し、この協力体制でこれまで、学部卒業生7名、博士前期課程修了生2名を輩出することができました。ご指導ご鞭撻、ご協力いただきました諸先生、研究室に所属してくれた学生諸君にこの場を借りて感謝申し上げます。研究室を巣立った学生は、化学メーカー、製薬会社、病院や行政の管理栄養士として活躍中です。

現在、研究室には大学院生3名、学部4年生3名、客員共同研究員9名が所属しており、研究室共通のテーマである「個体、組織、細胞の生理病理的変化の解析と食品栄養成分による制御」について、日々研究活動に取り組んでいます。最近の成果として、博士前期課程2年の田島悠也を中心に、膀胱がんを引き起こす芳香族アミン化合物の活性代謝物を新規に生体試料から検

出・同定しており、また同じく博士前期課程2年の加藤麻衣を中心に、糖尿病を背景とする肝発がんにおけるバイオマーカー分子を同定するなど、最先端の技術と知識を駆使し社会に貢献する成果を着実に挙げつつあります。さらに、当研究室の所属学生は、地元企業を含む民間企業との産学連携活動や、学内外共同研究（薬食融合研究）にも積極的に参加することで、最大の教育効果を目指した研究室生活を過ごしています。

これらの研究活動成果は研究室HPやインスタグラムで発信中です。ご覧ください。



■研究室の近況 (環境工学研究室 原 清敬)

平成27年6月に着任してから約4年が経ちました。平成29年度は関川貴寛助教の協力のもと、環境生命科学科一期生である学部卒業生2名を輩出しました。学科の一期生の卒業に関わったことは非常に大きな経験であると感じています。小職は、一期生が2年生の時に着任しましたので、学科の立ち上げに関わられた先生方や関係者の皆様の喜びも一入と想像いたします。また、平成30年度は学部卒業生1名と学外から入学した博士前期課程修了生1名を輩出することができました。このように学外から新たな息吹を入れることの重要性を感じました。研究室を巣立った学生はまだ4名ですが、たまにラボに顔を出してくれ、次第に社会人らしく成長していく姿が頼もしいです。

現在、研究室には大学院生4名、学部4年生3名が所属しています。令和元年度より菊川寛史助教が加わり、研究員2名を含む総勢11名で食品加工残渣など未利用再生資源の発酵資源化に関する研究や、微生物に光エネルギー利用能を付与して効率的に有用物質を生産させる研究等を今後も益々精力的に行って参りたいと考えています。研究室の所属学生には、研究室での生活を通して、研究だけでなく人としても成長してもらいたいと思っています。くわしい研究内容や研究室の様子についてはホームページで公開していますので、「静岡県立大学 環境工学」で検索してみてください。ご指導ご鞭撻、ご協力いただきました諸先生、研究室に所属してくれた学生諸君にこの場を借りて感謝申し上げます。



トピックス

3年連続！管理栄養士国家試験合格率100%

平成30年度食品栄養科学部栄養生命科学科卒業生28名全員が平成31年3月3日に実施された第33回管理栄養士国家試験に合格しました。

前年度から受け継いだ「100%合格バトン」を手に、学生たちはプレッシャーとも戦いながら、挑んだ受験でした。4年次に実施された模試にて120点を超える苦しんだ学生も、焦りと不安を抱えていましたが、本当に試験直前まで昼夜努力をしていました（もう少し早くにスイッチが入ればよいのに：笑）。

卒業式、謝恩会後に国家試験があった時代から考えると、学生だけでなく、教員にとっても晴れやかな気持ちで、社会に送り出すことができます。

大学で培った知識と経験を思う存分發揮し、県大卒の誇りとプロ意識をもって世界で活躍してくれることを切に願っています。

（国家試験対策委員 臨床栄養管理学研究室 新井英一）



新任教員の紹介（平成30年10月～平成31年4月着任）

保坂 利男（教授：臨床栄養学研究室）



2018年10月より臨床栄養学教室を担当することになりました。1994年医学部を卒業後、内科臨床に従事し、特に糖尿病・内分泌・代謝・栄養に関する研究を積んできました。基礎研究においては、インスリン刺激後の糖輸送の培養細胞での分子遺伝学的研究を最初に取り組み、その後インスリン抵抗性への生理活性物質や慢性炎症の作用、また地域性を生かした食品成分の血糖、肥満に対する作用などをマウスを使って研究もおこなってきました。前任先では、いくつかの臨床研究もおこなっていました。この10年来、臨床現場における食事の重要性が再確認され、栄養指導充実による病気の発症、悪化予防が推進されつつあります。さらに今後は、高齢化、地域医療に対応できる管理栄養士の育成とさらにそれらを指導、教育する立場の管理栄養士も必要となると思われます。今後の社会の変化に貢献できる管理栄養士・教育者を数多く輩出できるように努力を惜しまない所存であります。大学院大学として、研究においては、生活習慣病、高齢化医療にたいして基礎・臨床研究いずれも、病気の予防、治療に少しでも役立ち・貢献でき、願わくは今後の疾患の治療指針を変えられるように日々研究をいそしめればと考えております。

本同 宏成（准教授：食品物理学研究室）



平成31年4月1日付で食品物理学研究室の准教授に着任いたしました本同宏成（ほんどうひろのり）と申します。私は東北大学を卒業後、大阪大学にて学位を取得し、その後、4カ所の大学、研究所を経て本学へ参りました。研究も物理学から構造生物学、タンパク質からチョコレートまで様々な分野を渡り歩いてきました。これからは食品物理学研究室の主宰者としてじっくりと教育、研究に取り組みたいと思います。

これまで主に結晶を相手に研究していましたが、これからは非晶質の生体高分子も含め、広く食品を相手に研究していきたいと考えています。学生には、一つの分野にとらわれず、広い視野を身につけてもらいたいと思います。これまでの様々な経験を生かし、基礎と応用の両輪をうまく廻していくよう、また学生にも様々な経験を積んでもらえるよう努めてまいりますので、創星会の皆様にもご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

永井 大介（准教授：グリーンケミストリー研究室）



平成31年4月1日付でグリーンケミストリー研究室の准教授に着任致しました永井大介と申します。東京工業大学で学位を取得後、群馬大学理工学部にて助教をしておりました。これまで、専門分野であります高分子合成を基礎として、環境問題に貢献する高分子材料の合成を研究して参りました。機能性高分子を合成する際には新規の反応開発が必須ですので、新しい高分子合成法を開発して、レアメタルを効率よく捕集する高分子や、レアメタルを捕集したポリマーを有機-無機ハイブリッド材料に応用することを試みて参りました。また、群馬県は全国一のこんにゃくの産地でありますため、コンニャクグルコマンナンを原料としたエレクトロスピニング法によるナノファイバー合成を共同研究にて展開中であります。

静岡県には数えきれないほどの名産がありますので、地域資源を活用した機能性材料の創製を目指していきたいと思います。また、有害金属・有害物質除去など、環境面でも静岡県に貢献できればと考えております。創星会の皆様にはお世話になりますが、何卒ご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

串田 修 (講師:公衆栄養学研究室)



平成31年4月1日付で公衆栄養学研究室の講師に着任いたしました串田修と申します。私は東京農業大学を卒業、新潟医療福祉大学大学院の修士課程を修了後、大阪市立大学大学院にて博士号を取得いたしました。また、この間、新潟医療福祉大学、奈良県の畿央大学にて勤務し、今回、ご縁あって静岡県へ参りました。これまで一貫して、公衆栄養学の研究・教育に携わっております。

公衆栄養学研究室では、農村、高齢者集団、職域等を対象に、人々の食習慣に影響する環境・心理社会的要因を調査し、地域栄養活動に寄与していくことを目標としております。これまでに多くの研究者が健康と食事の関連に係る科学的根拠を築いてこられ、当研究室が食事とその要因も検討していくことで、効果的な栄養施策の推進につなげていきたいと考えております。若輩者ではございますが、創星会の皆様には、ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

菊川 寛史 (助教:環境工学研究室)



平成31年4月1日付で環境工学研究室の助教に着任いたしました菊川寛史と申します。私は岡山大学農学部を卒業後、京都大学農学研究科で博士号(2015年)を取得いたしました。修了後は、学振特別研究员、岐阜大学工学部助教を経て、今回ご縁をいただき静岡県立大学に赴任いたしました。

専門は応用微生物学です。有用化合物(特に機能性脂質・脂肪酸)を生産する微生物・酵素の探索と解析、それら工学的の変更による高機能化と高生産化に携わってきました。私の経験も活かしつつ、主任教員の原清敬准教授のもとで、物質生産プラットフォーム開発や未利用バイオマスを用いた高付加価値化合物の生産研究にも貢献してまいります。食・環境・生命を身近に感じる静岡の地で、好奇心旺盛な学生さんと一緒に自然の神秘にふれ、科学を学んでいければと思います。若輩者ではございますが、創星会の先輩方にはご指導・ご鞭撻賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

異動・退職された教員

坂田 昌弘 教授 : H31年3月退職 → H31年4月～静岡県立大学食品栄養科学部 非常勤講師

下位香代子 教授 : H31年3月退職 → H31年4月～静岡県立大学食品栄養科学部 客員教授

一ノ瀬祥一 准教授 : H31年3月退職 → H31年4月～すんぶ数理塾AINシュタイン 塾長、
静岡大学理学部 非常勤講師

遠藤 香 助教 : H30年9月退職 → H30年10月～共立女子大学家政学部食物栄養学科 専任講師

橋本 彩子 助教 : H31年3月退職 → H31年4月～京都女子大学家政学部食物栄養学科 講師



会計中間報告

(令和元年7月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			12,873,286
H30. 9. 5	アルバイト代 (H30.7～H30.8×1名)		49,932	12,823,354
H30. 9.11	遠藤先生退職お錢別代		5,000	12,818,354
H30. 9.13	会報印刷費(東洋プロセス、振込手数料込)		149,364	12,668,990
H30. 9.18	アルバイト代 (H30.9×11名)		21,000	12,647,990
H30.10.15	利子 (H30.10.1)	27		12,648,017
H30.10. 3	郵送料(会報誌送料)		252,000	12,396,017
H30.11. 9	はばたき寄金へ寄付		20,000	12,376,017
H30.10.15	アルバイト代 (H30.9～10×1名)		40,000	12,336,017
H30.11.16	第12回創星会(ホームカミングデー)開催費用		406,939	11,929,078
H30.12.21	創星会会員交流会支援金(16名)+振込手数料		80,432	11,848,646
H30.12.21	創星会会員交流会支援金(28名)+振込手数料		140,432	11,708,214
H31. 1.15	アルバイト代 (H30.11～12×1名)		11,000	11,697,214
H31. 1.15	坂田先生・下位先生・一ノ瀬先生退職記念品代(振込手数料込)		35,856	11,661,358
H31. 1.25	卒業アルバム補助金(5000円×85名)+振込手数料		425,324	11,236,034
H31. 1.25	創星会用卒業アルバム代		11,124	11,224,910
H31. 2.15	坂田先生・下位先生・一ノ瀬先生退職記念品花束代		15,000	11,209,910
H31. 3.19	橋本先生退職お錢別代		5,000	11,204,910
H31. 4. 1	利子 (H31.4.1)	24		11,204,934
H31. 5. 8	アルバイト代 (H31.1～H31.4×1名)		27,000	11,177,934
H31. 5.17	H31年度学部生入学時同窓会費	2,549,856		13,727,790
H31. 6. 7	ホームページ月管理費(R1.6～R2.5)(振込手数料込)		18,816	13,708,974

第12回 創星会（ホームカミングデー）を開催しました

平成30年10月27日（創祭1日目）に第12回創星会として食品栄養科学部ホームカミングデーを開催致しました。

会場には、約130名の卒業・修了生、教員、在校生が来場しました。

卒業生は旧友と学祭を楽しみながらホームカミングデーに参加したり、在校生は普段なかなか機会のない卒業した先輩たちと交流を行うことができ、大変好評でした。

〈第1部〉食品栄養科学部の現状並びに将来

第1部では、招待者の卒業・修了生の方々に、坂田学部長と小林裕和研究院長から食品栄養科学部の現状についてのお話をさせていただきました。また、招待者の方々からは学部への要望や提案などの貴重なご意見をいただくことができました。

坂田学部長および
小林裕和研究院長による
教育の現状についての講演



昼食をとりながら他社や他業界の
卒業生との交流を図ることができました



招待者の方々に
による自己紹介



〈第2部〉在校生と卒業生・修了生との交流会

交流会は、26名の招待者の卒業・修了生が職種別に分かれ、在校生たちが興味のあるブースに自由にお話を聞きに行くという形式で行われました。仕事内容や就職活動に向けたアドバイス、学生からの質問等について会話が弾み、会場は和やかな雰囲気でした。



就職情報、学内情報、講演会情報等のお知らせについて

創星会では会報誌の他に、メーリングリストにて創星会通信をお届けしております。

内容は就職情報、学内情報、講演会情報等です。有用な情報を発信しておりますので、是非ご登録下さい。

メーリングリストには、創星会HPのトップページの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。
(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)



【住所等変更登録について】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、
メーリングリストのご登録同様、創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除
(souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)を行ってからご登録の変更をお願いします。